

110 「地球の裏側」

ずっと気になっている言葉がある。「地球の裏側」という言葉、というか表現である。

南米のブラジルやアルゼンチンを紹介するとき、よく「地球の裏側」といういい方をするが、どうしても引っかかる。それをいうなら「日本の裏側」ではないのか？と反発を感じていた。

自分を中心に考えれば、確かにブラジルやアルゼンチンは日本の真裏にあるので、「裏側」という表現は理解できる。しかし、地球は球形なので「表」「裏」の区別はなく、「地球の裏側」という言い方はどうしてもおかしい。ただ、「地球の裏側」というとき、「日本の裏側」というより“とても遠い”という感じは伝わるかも知れない。それは「地球」とうだけで“大きい”ことが直感的に伝わるからだろう。

一方「月の裏側」という表現も耳にすることがある。これは納得できる。というのは、月は公転と自転の周期が同じため、地球からは常に同じ面しか見えない。見える面が固定された状態であり、それを表とすれば、月が球形であっても「月の裏側」という表現に違和感はない。見えない裏側を見てみたいという好奇心が生まれるのは自然なことだ。

以前、「表日本」「裏日本」という言い方をよく耳にしたが、これにも抵抗感があった。この表現は、特定の地方を「裏」と呼ぶことで、差別的な表現ということで改められ、今は「太平洋側」「日本海側」に改められている。人びとの意識に「太平洋側は表側、日本海側は裏側」という認識があるのは否定できない。明治以降、政治、経済、文化などの中心が太平洋側に集中していたためと考えられる。

近代以前わが国の主要な交易手段は船で、中国や朝鮮半島などが相手であり、当時は日本海側が表玄関だったことを忘れてはならない。

「地球の裏側」には、(自分のいる側を表としたら)ということが隠れており、「表」を主、「裏」を従という優越意識が感じられる。逆に、ブラジルやアルゼンチンの人が日本を紹介するとき、同じように「地球の裏側」というのだろうか？

アルゼンチン通の知り合いに訊いたら、「El país, sol naciente」^{エル バイス ソル ナシエンテ}「日出ずる国」(直訳：太陽が生まれる国)といういい方をするようだ。このいい方が一般的かどうかかわからないが、「裏側」という表現よりはるかにいい。中国から見て日本は“太陽が昇る”方向にあり、中国語でjih pun^{ジー プン}「太陽の出る国」(jih/太陽 pun/元)「日の本」と呼ばれていた。それをマルコポーロが“Chipangu”としてヨーロッパに伝え、英語でJapan「Land of the rising sun」と呼ばれるようになった。とすると「日出ずる国」は世界共通の言い方といえそうだ。

ブラジル通の知り合いの話では、ジョークで「ビーチで砂を掘ったら中に日本人が埋まっていた」というようないい方をするそうで、やはり真反対にあることを感じさせる表現だと思う。

ところで、もしアメリカが日本の真裏だったら、日本人はアメリカを「地球の裏側」の国といういい方をするだろうか？(2021.07.25)